

焼き物の村 オンドン・ルツセイから

明博史

男性陶工

メイツはシエムリアップ出身です。22歳の時にシエムリアップにある窯元で仕事を始めたのが陶器作りとの出会いでした。当時、この窯元ではコンポンチュナン、オンドンルツセイ出身の女性3人も働いていました。ナラー、ソツキー、ナウ。現在、この3人とメイツは私たちのプロジェクトと一緒に仕事をしています。

2010年にメイツとナウが結婚して、彼はオンドンルツセイ村で暮らすこととなりました。焼き物の村に来て、「家で作っている人がたくさんいるのが面白かった」と言います。2011年からプロジェクトに参加しています。

村では伝統的に女性が焼き物作りをして、男性が粘土作りや行商などで支えてきました。私たちのプロジェクトでも男性の主な仕事は粘土と釉薬作りです。ろくろでの成形は女性が行っていますが、ろくろでは作れない角皿などは男性が成形することもあります。

「いまは粘土作りを毎日しなければならぬので忙しいけど、時間が出来れば、ろくろで成型してみたい」。メイツは自分の家に素焼き用の窯を自分で作りました。「将来は高温で焼ける窯を作りたい。そして釉薬陶器を家で作って売ってみたい」

ゆくゆくはメイツをはじめとして男性の手



明博史 (Hiroshi AKE)

カンボジア伝統陶器プロジェクト、コーディネーター。陶器生産を地場産業として盛り上げるべく、セールス、マーケティング、生産管理などを担当。日本でテレビニュース・ドキュメンタリー番組制作、写真、ウェブサイト制作などメディアの仕事に関わったあと、2000年、初カンボジア。2009年、地雷・不発弾対策支援 NGO のカンボジア事務局代表としてバタンバンに赴任。任期終了後、「カンボジア伝統陶器プロジェクト」に参加。このコラムでは村のメンバーたちのストーリー、声を伝えていきます。

から生まれる作品も見てみたいです。またまだ数は少ないですが村の男性陶工の活躍にも期待です。



被災地・釜石に服飾工房を⑱

Kamaishi Diary – Recovering from Disaster

2月4日から6日間名古屋へ!

From February 4th, a 6-day stay in Nagoya

今年創業400年という愛知県名古屋市の老舗デパートで催される岩手県の物産展に、幸いにも初出展することになりました。工房運営2年目の昨年、東京の老舗デパートの物産展に採用されたことをきっかけに、ほかの大手の催しにも岩手手工芸品を創作する釜石の工房として認知していただき、物産展販売が売り上げのメインになるのかと思いはじめています。運転資金の捻出は変わらず大きな課題ですが、当工房の釜石をモチーフに企画した創作の方向性に間違いがないという自信を持つことができました。

愛知県は、私にとっても釜石市にとっても、深いつながりがあるところです。私の子どもの頃の釜石市は、釜石製鉄所の景気が続き人口も10万人に迫る勢いの東北の一大工業都市でした。首都圏との人の行き来、海外との関係も盛岡を上回っていたと聞きます。市街地は家族連れやおしゃれをした人々が行きかい、バスは混み合いました。港には大きな外国船や漁船が停泊していました。しかし、親会社の大手製鉄会社は釜石製鉄所の縮小を始め、多数の社員が異動先として愛知県の東海製鉄所へ転動するようになりました。同じ頃私の父も愛知県の関連会社へ出向しました。このような形で多くの釜石市民(家族)が当時愛知県民となったのです。

昨年12月には初出展の審査のため、この名古屋の老舗デパートのご担当者ご一行が釜石の工房まで訪ねてくれました。派手な大漁旗モチーフの商品一連を楽しんで検討くださり盛り上がった打ち合わせでした。400年という長い歴史のある老舗でたくさん売れるよう、この原稿を書いている1月、心をこめて製作の終盤を過ごしています。

「おしゃれ港町の復興」を願って、「釜石ファッションを発信!」する釜石マダムミコ工房の今後の物産展の出店予定(見込み)をお知らせしますので、お買い物で応援をお待ちしています。

<東京老舗デパート: 4月15日から4月20日 盛岡老舗デパート: 5月>



川村美也子 (マダムミコ)

Miyako KAWAMURA (Madam Miko)

アパレルメーカーのデザイナーやバタンナーを経てアトリエや洋裁教室を立ち上げる。その後、カンボジア、中国、チュニジアに渡り洋裁の仕事をし、2006年日本に帰国、洋裁教室を再開した。東日本大震災後は、被災した出身地・釜石市での服飾工房開設を目指し活動を始めた。カンボジアとの縁は深く、日本帰国後もプノンペンにある「ニョニウムショップ」のプロデュースを手掛けている。このコラムでは、ふるさとの復興に取り組むマダムミコの奮闘ぶりを伝えてもらう。ブログ「マダムミコチャンネル」
<http://mmemiko.cocolog-nifty.com/blog/>

My workshop is participating in the "Iwate local specialty exhibition" at a well-established department store in Nagoya, Aichi. After an exhibition in Tokyo last year, our workshop started getting recognition. Sales at exhibitions may become a major part of our revenue.

Kamaishi has a strong connection with Aichi prefecture. When a major steel manufacturing company downscaled, a large number of employees moved to Aichi seeking jobs.

A team of Nagoya department store visited our workshop last December regarding the exhibition. They enjoyed going through our signature pieces that have colorful "big fish" motif. We worked wholeheartedly toward the final phase of the craft in January.

We look forward to seeing you at future exhibitions, and thank you for your encouragements and supports.

Department store in Tokyo: April 15th through 20th
Department store in Morioka: May